

## 第 33 回 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 廃炉等技術委員会 議事要旨

日 時 2019 年 6 月 21 日(水)10:00~12:00

場 所 原子力損害賠償・廃炉等支援機構 第二大会議室

### 1. 戦略プラン 2019 骨子案について

機構から、東京電力ホールディング(株)福島第一原子力発電所の廃炉のための技術戦略プラン 2019 (以下「戦略プラン 2019」という。)の骨子(目次構成)案について、以下のとおり説明した。

○構成については、前年度の戦略プラン 2018 と同様の方針とする。

○戦略プラン 2019 のポイントとしては、中長期ロードマップのマイルストーンを踏まえ、初号機の燃料デブリ取り出し方法を確定するための戦略的な提案を行う。

廃炉等技術委員からの主な意見は以下のとおり。

○プロジェクト体制への組織改編について、組織現場の士気をどのように保つのが問題となっているのだから、現場の士気を確実に維持・向上できる改編でなければならない。

以上の点を踏まえ、骨子案について概ね了承とし今後公表することとした。

### 2. 廃炉・汚染水対策に関する分析・調査の計画的実施に向けた基本的考え方について

機構から、廃炉・汚染水対策に関する分析・調査の計画的実施に向けた基本的考え方について、以下のとおり説明した。

○今後、福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水対策に関する分析・調査に関する国際的な議論が本格的に開始されることを見据えて、中長期ロードマップや機構の戦略プランに既に記載されている廃炉・汚染水対策の実施に向けた基本原則や基本的な考え方における分析・調査の位置づけを「福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水対策に関する分析・調査の計画的実施に向けた基本的考え方」としてまとめ、二国間・多国間の枠組み等による活動の中で発信していくこととした。

○福島第一原子力発電所の廃炉を安全かつ着実に進めることが最優先の課題であり、その前提の下で可能な限り速やかな廃炉を実現していくことが必要である。このためには様々な分析・調査を実施する必要があるが、それらは廃炉を安全かつ着実に進める取組と整合的に実施されること。

○一方で、福島第一原子力発電所の事故原因の究明や今後の原子力に関する安全性向上の観点からの分析・調査の実施も必要とされている。こうした分析・調査は、福島第一原子力発電所の廃炉を安全かつ着実に進めるために行われる取組と整合的であることを前提として、事故原因の究明や今後の原子力に関する安全性向上の観点からの必要性を十分に考慮して計画・実施されること。

○福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水対策に関する分析・調査は、現場の作業状況の厳しさを踏まえ、地域の皆様、周辺環境及び作業員に対する安全確保を最優先に、具体的成果を十分に予測した上で計画すること。

- 福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水対策に関する分析・調査は、その分析・調査により得られる情報が、何のために使われて、何に貢献するのかを明確にした上で、その意義とそれに伴う負担を熟慮し、廃炉プロジェクトとして合理的に許容できる範囲で行うこと。
- 福島第一原子力発電所の事故を起こした我が国の国際社会に対する責任として、福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水対策に関する分析・調査で得られた情報の積極的な発信を行うこと。また、それを超える情報を求める機関には、相応の負担を求める可能性があること。

### 3. 廃炉への取組状況について

東京電力から、福島第一原子力発電所の廃炉への取組状況について、汚染水対策の状況、使用済燃料プールからの燃料取り出しに向けた準備状況、燃料デブリ取り出し準備に向けた準備状況、廃棄物対策等の進捗報告があった。

### 4. その他

機構事務局から、機構廃炉支援部門の最近の活動実績等について説明があった。

以 上